

レースっていいよね
第50回「泣いっちゃよ」の巻

もう、1年ほど前になるだろうか。ある番組で、ウッチャン・ナンチャンのナンチャンが映画「初恋の来た道」を絶賛していた。で、その話を聞いていたウッチャンは当初、懐疑的だったものの、結局「初恋の来た道」を見終わって泣いてしまったと言う。

その後、何かの番組で明石家さんま師匠も大絶賛。もともと、さんま師匠の場合は主演女優のチャン・ツイイーがタイプだという感が否めないのだが。

で、私もやっと「初恋の来た道」を見ることが出来た。正直、気にはなっていたものの、周囲が言うほど期待もしていなかったし、たとえ良い映画であっても泣くほどまでには至らんだろう、とタカをくくっていた。

映画の序盤、時間軸でいう「現在」の映像は白黒である。それが「過去」の映像に移行し、カラーになるのだが、その色の何と鮮烈なこと！中国の大地の広大さ、自然の雄雄しさ、厳しさ。活気に満ちた人々の営み。生活様式は異なるけど、なんだか懐かしいような、そんな感覚を覚える。

そして、主人公の演技が光る。主演のチャン・ツイイーは確かに可愛い。いや、めちゃカワイイ。さんま師匠の気持ちも判る。でも、それだけじゃない。カワイイのは顔だけではない。その表情、細かなしぐさ、そして何といても、恋焦がれる相手への痛いまでの想い。ここまでヒトを愛する、もしくは愛されることがあるものだろうか。

でも、この映画の良いところは、この主人公達の恋愛話に終始しないトコロである。もちろん、この美しい映像と迫真せまる演技は、それだけでも見る価値はあるのだが。それだけで終わらず「過去」のエピソードを垣間見せることで「現在」という白黒映像がリアリズムを生み、感情豊かに感じる。

久しぶりに、心温まる良い映画を見た。

